

令和2年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人室蘭工業大学

1 全体評価

室蘭工業大学は、①国際的に通用する理工系人材の育成、②科学技術の知の創造と学術研究の推進、③北海道地域の中核拠点として、地域の活性化と発展に寄与すること等、3つの目標を掲げている。第3期中期目標期間においては、①において学士課程では創造的な科学技術者、大学院博士前期課程では高度な科学技術者、博士後期課程ではイノベーション博士人材を育成すること、②において航空宇宙機システム分野及び環境分野を中心にものづくり産業と学術研究を推進し、その成果を世界に発信する知の創造の拠点を形成すること、③において自治体や地域企業と多分野にわたる産学官金の連携を進展させ、地域が必要とする人材を輩出することを基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、学内施設を有効活用し、研究成果の事業化支援や企業との共同研究を促進するアライアンスラボ制度を運用しているなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画に取り組んでいることが認められる。

「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、令和2年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 令和元年度に設置した未利用資源エネルギー工学講座では、地方創生につながるハイブリッド石炭地下ガス化（H-UCG）の実証試験の実施及び未利用資源エネルギー等に関連する技術開発を実施し、令和2年7月と令和3年3月に中間報告会を開催している。これらの技術開発により、政府が掲げる2050年までのカーボンニュートラル達成に向けて、地域の脱炭素化のための研究成果の社会実装や、地域と大学の連携促進に貢献するとともに、新たなビジネスモデルを生み出すことを期待し、寄付者からの継続要望と寄附申し込みにより、設置期間の延長を決定している。（ユニット「地域課題に対応する研究の推進」に関する取組）
- 航空宇宙機システム研究センターが中心となり、米航空宇宙局（NASA）のアジア代表部代表による蘭岳セミナーをオンラインで開催しているほか、白老実験場を共同利用・共同研究拠点として構築することを目的として「ロケットスレッド実験設備を活用した Linear Hyper-G 環境学術領域の創成」を主導し、他大学との共同研究を6件実施している。これらの活動により、重点研究分野を進める航空宇宙機システム研究センター及び希土類材料研究センターにおいて、第2期中期目標期間の平均と比べ、教員一人当たりの論文数が0.71件から1.13件（約60%増）、教員一人当たりの論文被引用数が2.09件から4.17件（約100%増）、教員一人当たりの分野に係る獲得外部資金が226万円から294万円（約30%増）となっている。（ユニット「国内最高水準の研究拠点形成」に関する取組）

2 項目別評価

<評価結果の概況>	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載16事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載7事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

令和2年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 学内施設を有効活用した地域企業との共同研究の実施

研究成果の事業化支援や企業との共同研究を促進するため、企業の研究開発室として大学の部屋を有償で貸付するアライアンスラボ制度の運用を開始し、企業との共同研究・連携強化を図っている。本制度により、これまでに企業3社が大学内に研究開発拠点を開設し、研究成果の事業化支援及び企業との共同研究を促進しているほか、財産貸付料として年間115万円の収入を得ている。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載2事項全てが「年度計画を上回って実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守等

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載12事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

令和2年度の実績のうち、下記の事項について**注目**される。

○ 大樹町サテライトの設置

令和2年3月に北海道大樹町と包括連携協定を締結し、同町を中心とした十勝地区におけるスペースポート構想の高まりに向けた連携の強化、3km高速走行軌道の実現に向けた取組やインターステラテクノロジズ社との共同研究の促進、教育や地域貢献の取組として大樹町が主催する宇宙航空イベントへの支援及び協力等をより推進させることを目的として同町に大学の拠点を設置している。